



オバマ新政権発足

就任式 観衆、最多の200万人

【ワシントン20日共同】二時すぎ、第四十四代「変革」を掲げ、昨年十一月の米大統領選に勝利した民主党のバラク・オバマ氏(47)は二十日正午(日本時間二十一日午前

二時)すぎ、第四十四代大統領に就任、ワシントンの連邦議会議事堂で宣誓し、新政権が発足した。新大統領は就任演説で「米国再生に取り掛かる」

と宣言、経済危機克服に向けた決意を示し、責任ある形でイラクから撤退を始める方針を示した。黒人大統領は米史上初めて。

約八十年前の大恐慌以来とされる深刻な景気低迷の中、景気刺激策の迅速な実行など経済立て直し新政権の最大の課題。オバマ氏は八年間に及んだブッシュ前共和党政権時代の単独行動主義から脱却、国際社会の信頼回復を目指す。

歴史的な就任式に立ち会うため、ワシントンの中心部には全米から史上最多の二百万人前後が詰め掛けた。オバマ氏は就任式後、議事堂からホワイトハウスまでの約二・五キロをパレード。オバマ氏は奴隷解放を

宣言したリンカーン元大統領が使ったのと同じ聖書の上に左手を置いて宣誓。就任演説で「われわれは危機の真ただただ中にいる」とした上で「新たな責任の時代が来た」と強調、政府と国民が一丸となって難局克服に取り組むよう呼び掛けた。

経済再生に向け、新規雇用創出とともに将来の成長の土台となる公共投資の必要性を強調。アフガニスタンの平和構築に全力を挙げ、イスラム社会との新たな関係を築き、核の脅威削減を目指す」と述べた。



20日、ワシントンでの就任式で演説に臨むオバマ米新大統領 (AP共同)



20日、ワシントンでの就任式後のパレードで、観衆の歓声に応えるオバマ米新大統領。右はMichelle夫人 (AP共同)